圭陵會々報

発行所
岩手医科大学圭陵会
〒020-8505盛岡市内丸19の1
Tel 019(651)5111番
Fax 019(624)8380番
E-mail:info@keiryokai.gr.jp
URL http://www.keiryokai.gr.jp
題字 三田定則 先生書
発行人 石川育成
編集人 酒井明夫
印刷所 山口北州印刷

1月号

初冬　早朝の矢巾キャンパスと岩手山（右は建設中（来春完成予定）のマルチメディア教育研究棟）

目次

新年のご挨拶
圭陵会会長　石川育成…1
理事長・学長　小川彰…2
新病院千床規模……3
定年退職される教授のご挨拶…4
岩手医科大学入試概要……15
医療専門学校入試概要……18
圭陵会本部だより……20
歯学部・歯学部同窓会への支援…22
医学部同窓会だより……30
新年のご挨拶　会長　村井和夫
歯学部同窓会だより……33
新年のご挨拶　会長　城茂治
トピックス……38
東医体・全歯体等・医大祭報告…42
お祝い・ご逝去・編集後記…44

新年のご挨拶

圭陵会会長　石川育成

年頭にあたり、皆様のご健康とご多幸を心から祈念致します。

昨年六月七日に、前理事長大堀勉先生がご逝去されました。矢巾キャンパス構想の最終章を見ることかなわず、刀折れ、矢尽きての大往生でございました。七月七日に行なわれた大学法人葬において、圭陵会を代表して思いを述べさせて頂きました。改めてご冥福をお祈り申し上げます。

また、一昨年三月十一日の東日本大震災により被災された地域の医療復興については、岩手県医師会、岩手県歯科医師会と連携して引き続き活動を継続しております。今後とも皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

さて、母校岩手医科大学は、創立百周年に向けて、矢巾キャンパスへの総合移転事業を着々と展開しております。昨年五月にはドクターヘリの本格運航を開始、本年三月には「マルチメディア教育研究棟」が完成予定で、その中には「災害時地域医療支援教育センター」も併設されます。今後は、平成三十一年の開院を目指して「附属病院」の移転と外来中心の「内丸メディカルセンター」の整備が一体となって進められる予定であります。

一方で、体制の整備も進めております。入学者数の減少など厳しい状況が続く歯学部においては、現状打破の為にハーバード大学との連携による「歯学部改革プロジェクト」に取組んでおり、その効果が期待されております。また、本年三月には薬学部卒業生が輩出されることから、これに伴い薬学部大学院が設置されます。圭陵会の事業局にも薬学部同窓会局を設置して支援事業を開始しましたが、薬学部同窓会設立に向けて具体的な提案もされているところであります。

このような様々な整備や改革により、母校岩手医科大学が益々充実、発展していく為には、全ての大学関係者、全ての圭陵会員のご協力が必要であります。会員の皆様方の絶大なご理解とご支援をお願い申し上げまして新年のご挨拶と致します。

新年のご挨拶

岩手医科大学
理事長・学長　小川　彰

新年明けましておめでとうございます。

圭陵会の皆様にはご健勝で新年を迎えられました事、心よりお喜び申し上げます。

薬学部がついに念願の第一期生を世に送り出す事になりました。薬学部の完成は岩手医科大学の長い歴史の中で、医歯薬三学部を擁する医系総合大学になったことで一つの大きなターニングポイントを迎えました。医系三学部を擁する大学は少なくありません。しかし、同じキャンパスで共通の建物で講義、実習、研究がおこなわれているのは全国でも本学しかありません。ハード、ソフトともに学部の垣根のない連携を意識しています。医・歯の基礎講座は統合基礎講座として再編が終わり、今後は、薬学部の関係講座を含む統合講座への再編を考えています。また、今年の四月には薬学部に大学院が設置され医歯薬の大学院が出そろい、今後統合大学院を目指します。

昨年、附属病院移転に係る基本方針を確定しました。高度医療提供のための統合医療センターを擁する一、〇〇〇床規模の附属病院新本院を矢巾キャンパスへ整備する。また、内丸には、県内外からの患者さんのアクセスが良い内丸の利便性を最大限に活かし、高規格の診断診療機器を揃え、診断のみならず、がん外来治療などを含む高度外来医療を提供する五十床規模の内丸メディカルセンターを整備する。移転後の附属病院跡地については、今後関係機関と相談しながら、都市再開発を計画する。平成三十年、遅れても平成三十一年開院予定とする。従って、本年は記念すべき念願の病院移転整備元年となります。

さて、先日、岩手県立図書館から大変貴重な文献が見つかりました。「岩手病院、岩手医学校、岩手看護婦養成所、岩手産婆学校及びその他の事業の十年間経営概況報告（明治四十年に発刊）」です。冒頭「明治三十年四月岩手県より旧岩手県立病院の敷地建物全部を借り受け私立岩手病院等を設立し・・・。」とあります。医学生の養成は明治三十年の私立岩手病院開院と同時に「医学講習所」の名称で発足したとされています。資料編から明治三十年の医学生在籍が明らかとなりました。大正元年、国の医育制度の変更によって廃校となり、約十数年の三田俊次郎先生のご努力により、岩手医学専門学校が再発足したのです。これらの歴史は「公」が出来なかった事を「私」が実践した全国でも特異な試みだったと言えるでしょう。

この様な歴史を考えた時、明治三十年を本学の創立と考えるのが適当です。全国の私大医学部の中でも歴史の長さから五本の指に入り、平成二十九年には創立百二十周年を迎える事となります。地方でこの様な長い歴史を重ねてきた医育機関は他に例がなく、先人のご努力の歴史を伝えて行く必要があると思います。

そこで、新病院の移転に伴い古い建物群が整理される直前のタイミングの平成二十九年に創立百二十周年記念式典を挙行し、本学の公式な創立年を明治三十年に変更したいと考えております。

創設当時の三田俊次郎先生始め多くの先人のご努力と、正しい歴史を伝えて行く事が私どもの責務です。皆様には、この意義をご理解頂きご協力を切にお願い申し上げご挨拶と致します。

新病院 千床規模

矢巾移転の岩手医大 現在地は50床に

18年度の開院目標

岩手医大（小川彰理事長）は19日、現在の盛岡市内丸から矢巾町藤沢に移転・開院する新付属病院の病床数について、小児・周産期・救急部門を一体化させた統合医療センターを備えた千床規模とする方針を明らかにした。同市内丸には外来中心で歯科医療センターを併設する50床規模のメディカルセンターを整備。両施設ともに2018年度の開院を目指す。現付属病院は解体するが、跡地活用が今後の課題になりそうだ。

現付属病院は116床。当初は新病院800床、内丸センター250床を想定していたが、医師不足の中で両施設を効率運用するため新病院千床、同センター50床とした。

新病院は12、13階建てとし、周辺道路の拡幅も検討。内丸センターは現行の循環器医療センター施設と解体後の歯学部エリアを活用する。

新病院には従来通りの27医科診療科（消化器・肝臓内科、外科など）のほか循環器医療センターの5診療科、入院を要する歯科診療の口腔外科を設置予定。現病院に点在する母体胎児集中治療室（MFICU）と新生児集中治療室（NICU）、高度救命救急センターなどを統合医療センターとして一体整備し、機能連携を図る。

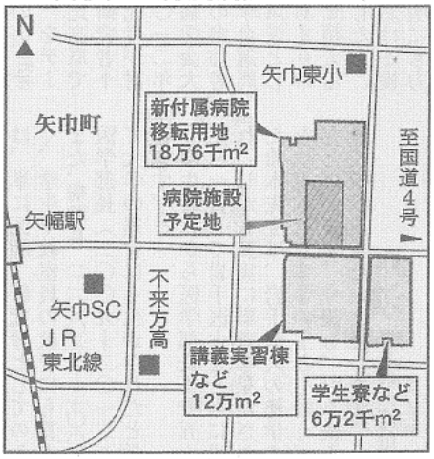
内丸センターには27医科診療科の大半と10歯科診療科などを設け、50床は検査入院などで活用。がん診断と治療を担うPET・リニアック先端医療センターと連携する。

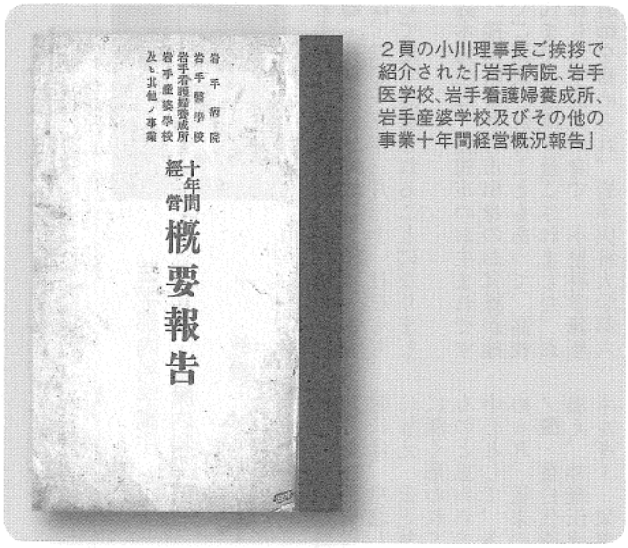
職員約3千人と医師約500人の人員体制は維持する考えだが、状況に応じた増員も検討する方針だ。

新付属病院、内丸センターともに15年度の着工を目指す。病院移転の総事業費は約550億円で、県から60億円程度の補助を見込むほか自己資金や借り入れで賄う。資金確保のほか現病院の解体に伴う跡地活用が今後の課題だ。

記者会見した小川理事長は「県民に高度医療を提供し、地域医療の中核病院として県内外の病院と連携もしていかなければならない」と意欲を述べた。

岩手医大付属病院の移転地





２頁の小川理事長ご挨拶で紹介された「岩手病院、岩手医学校、岩手看護婦養成所、岩手産婆学校及びその他の事業十年間経営概況報告」

岩手日報　H24・12・20掲載
※FAXニュース第27号として送信